

第3回 大和御所道路 (橿原北IC～橿原高田IC) 植栽検討委員会 (議題)

日時: 令和3年12月3日(金)

場所: 奈良国道事務所

議題 (1) 道路植栽整備方針書 (素案) の確認

道路植栽整備方針書の構成

1. はじめに
 2. 事業の概要
大和御所道路の事業概要・対象区間の道路構造
 3. 橿原バイパス現況植栽帯の設置・撤去の経緯
設置目的・緑化手法の概要・植栽時期・使用樹種
植栽方法・橿原バイパス現況植栽帯の変遷
撤去理由・橿原バイパス現況植栽帯の改善すべき点
 4. 沿道住民からの意見の把握
 5. 上位・関連計画の植栽整備方針
大和区間全体・隣接区間
 6. 本区間の植栽整備方針
基本理念・基本方針・配植デザイン・候補樹種
 7. 今後の植栽整備に向けて
- 参考資料 1. 植栽検討委員会の概要
参考資料 2. 植栽検討ワークショップの概要
参考資料 3. アンケート調査の概要

2

基本理念（案）

対象区間 **大和御所道路**は、592年～710年の一世紀余りの期間、歴代の皇居が営まれ **都が置かれ**、仏教文化が栄えた歴史ある地域に位置します、**古くは上ツ道、中ツ道、下ツ道と呼ばれていた古代大和盆地を南北に縦貫した幹線道路と同じように南北を結ぶ動線である。**

対象区間の現況植栽は、そうした地域にふさわしい樹種 **土地の条件に適した潜在自然植生種**を中心に、地域住民との協働により整備されてきた地域とのつながりが深いものとなっている。

新たに整備する植栽は、**奈良県を走る重要な道路のみどりとして**、これから数十年先の未来に残るものとなるため、こうした **大和の歴史 奈良らしさ** を伝える重要な役割を果たしながら、**生態系サービスの供給に寄与するようなみどりを創出し**、これまでに築いてきた地域とのつながりも継続していく必要がある。

委員等からのご意見

⇒「歴代の皇居が営まれ」という表現は、「都が置かれた」等の表現がよい。

⇒対象区間のことだけでなく、全体を踏まえた上での対象区間の検討であることを表現すればよい。

⇒「地域にふさわしい」という表現は幅広い意味を持つため、不明瞭な表現となるのではないかと。

⇒大和御所道路は、昔あった上ツ道、中ツ道、下ツ道という南北の道路の現代版とも言える重要な道路だと考える。

⇒この区間の植栽整備のみで「歴史」を表現することは難しいのではないかと。

⇒この道路においては、生態系サービスの観点も重要である。

⇒新たな植栽帯は、生態系サービスを掲げる先進的な植栽帯として機能することが重要である。（有識者ヒアリング）

3

前述した基本理念を簡潔に表現するフレーズとして、第2回で提示した案から、以下に示す変更案に変更する。

【第2回委員会提示案】

大和の歴史を未来につなぐ地域に愛されるみどりの創出



【変更案】

未来の地域につなぐみどりのなら大路

第2回委員会にていただいた「植栽整備のみで『歴史』を表現することが難しいのではないか」「うたに用いられるようなスマートな表現が良いのでは」とのご意見を踏まえて、この先の未来でも地域とのつながりを継承しながら、みどり豊かな奈良の重要な道路として存在していくことを目指す点をスマートに表現したフレーズとして、この変更案を用いる。

4

基本方針（案）

① 奈良の歴史 奈良らしさを未来に伝える樹種の導入

奈良にふさわしい樹木(万葉植物や潜在自然植生種等)を植栽し、奈良らしいみどりを創出する。

委員等からのご意見

⇒この区間の植栽整備のみで「歴史」を具現化することは難しいのではないか。

5

② 四季の変化を感じられる空間の創出

景色や香りで四季を感じられ、生活に潤いを与える緑を創出する。

委員等からのご意見

⇒奈良らしさを表現する常緑広葉樹の中にも四季の変化を感じられるものはあるが、それが一般的に分かりやすい四季の変化と一致しにくいところがあるため、「四季の変化の創出」を基本方針の一つにしない方がよい。

6

③② 地域住民の生活の質を高めるみどりの創出

景色や香りで季節感を演出する樹種を用いながら、見通しのよい適度な密度で中高木を配植して緑量も確保することで生活環境保全機能を確保し、地域住民の生活環境の質の向上に寄与するみどりを創出する。

委員等からのご意見

⇒暮らしの楽しみになる空間や美しい見た目も地域住民の生活の質を高めることにつながるため、「四季の変化を感じられる空間」は、「地域住民の生活の質を高めるみどりの創出」に包括できると考えられる。

⇒密植するのではなく、適切な維持管理を行いながら風通しや見通しのよい植栽帯を整備し、鳥や動物、そして、人々の生活にとっても良い環境を作るとよい。（有識者ヒアリング）

7

③ 道路交通の安全性、快適性向上に資するみどりの創出

走行するドライバーが安全な運転をできるとともに、同乗者を含めた道路利用者に対して、走行時の快適性を提供できるみどりを創出する。

委員等からのご意見

- ⇒これだけの大きな道路であるため、地域住民だけでなく、車で走るドライバーのための道路空間の質も非常に重要である。
- ⇒京奈和自動車道の整備に向けて景観計画を策定した際に、道路からのドライバーの視点を非常に重要視していた。この道路を考える上では、必ずドライバーの視点が必要と考える。

8

④ 道路構造に応じた緑化デザインと区間全体での統一感の確保 を持ちつつ道路構造に応じた緑のデザイン

道路構造が大きく変化する対象区間では、道路構造に応じた配植を行いながら、将来の沿道土地利用の変化にも柔軟に対応できるよう、区間全体での統一感を確保したみどりを創出する。区間を代表する樹種を設定し点在させる等、区間全体での統一感が感じられる工夫をしながら、道路構造に応じた緑のデザインを検討する。

委員等からのご意見

- ⇒様々な制約がある中で、現況植栽のような統一感を持った植栽帯を整備することは難しいと考えられる。
- ⇒路線全体の統一感として、対象区間のイメージツリーとなる高木種を高木が植えられる場所に取り入れながら、低木しか植えられない場所でもスポット的に植えることで、全体としてゆるやかな統一感を創出する手法もある。

9

⑤維持管理の省力化に資する植栽の整備

適切な維持管理の実現に向けて、メンテナンス手間の少ない**省力化に資する**植栽帯を整備する。

委員等からのご意見

⇒維持管理に係る人手や予算が限られているため、今後の植栽整備においては維持管理の視点も配慮すべきである。

10

配植デザイン（案）

区間全体

- ・**見通しや風通しを確保**しつつ、**一定の緑量を確保**した配植とする
- ・十分な幅が確保可能な場所では、**将来的な自然樹形での広がりの中でも密植とならない間隔で中木や高木を配植し、低い位置には低木を配植**する。
- ・樹種の選定では、カシ類を始めとした**奈良らしさを表現**する潜在自然植生種や万葉植物等に**季節感を演出**する種を加え、それぞれの場所に適した樹種を、**維持管理面にも配慮**しながら選定する。
- ・シンボルとなる高木種（今後検討）を区間を通して採用することで、**区間全体でゆるやかな統一感を感じられる空間**を創出する。

植栽帯のイメージ



11

幅の狭い植栽帯・地下構造物の制約を受ける区間

- 用地の制約等から、わずかな植栽帯幅しか確保できない区間では、中高木を植えても、根上がり等の**道路構造物への悪影響**が懸念されるとともに、維持管理頻度の増大等、**管理面での課題**も生じるため、低木のみを配植する。
- 函渠区間の起終点付近は、函渠構造物の土被りが浅くなり、**中高木の生育に必要な植栽基盤の確保が困難**となるため、低木のみを配植する。



12

交差点付近・合流部

- 交差点付近では、**道路植栽が見通しを阻害**し、安全性の低下を招く場合があるため、安全性を確保するためには、道路植栽に対する配慮が求められる。そこで、ドライバーから歩行者や自転車等を視認できる高さに抑えた**低木のみ配植**を基本とするが、特に視認性の確保に配慮すべき箇所では、**地被類のみ配植や防草処理等も検討**する。
- 一般部と側道の合流や車道と歩道・自転車歩行者道の合流部においても、**交通面での安全性向上**に配慮して**低木のみ配植**を基本とするが、必要に応じて**地被類のみ配植や防草処理等も検討**する。



13

議題（２）

候補樹種選定方針の確認

候補樹種選定方針

候補樹種は、隣接区間（保津西交差点～小槻町交差点区間）との整合性にも配慮しつつ、本区間の基本方針の実現に寄与する樹種として、以下に該当する樹種より選定する。ただし、樹種選定に際しては、排気ガスに対する耐性、維持管理性、市場性にも配慮する。

- ①隣接区間の候補樹種に選定された潜在自然植生種
- ②隣接区間の候補樹種に選定された準潜在自然植生種
- ③万葉植物
- ④これまでの橿原バイパス植栽で用いられていた樹種
⇒奈良らしさの創出
- ⑤季節感を演出する樹種
- ⑥大気浄化能力の高い樹種
⇒地域住民の生活の質を高める

奈良らしさを創出する候補樹種

①隣接区間（保津西交差点～小槻町交差点区間） の候補樹種に選定された潜在自然植生種

- （高木） アラカシ、イチイガシ、ナナミノキ、ヤマザクラ
- （中木） イヌガシ、カナメモチ、クロガネモチ、サザンカ
シロダモ、ヒイラギ、モチノキ、ヤブツバキ
- （低木） アオキ、クチナシ、ネズミモチ、ヒサカキ、ヤツデ

②隣接区間（保津西交差点～小槻町交差点区間）の 候補樹種に選定された準潜在自然植生種

- （高木） クスノキ、シイ、シラカシ、ツクバネガシ、ナツツバキ
- （中木） アキニレ、アセビ、カクレミノ、コブシ、ソヨゴ、タムシバ
- （低木） イヌツゲ、シャシャンボ、シャリンバイ、テンダイウヤク
ノイバラ、モチツツジ

16

③万葉植物

- （高木） アラカシ、イチイガシ、イチヨウ、ケヤキ、サクラ類
シラカシ、スタジイ、マテバシイ 等
- （中木） アセビ、キンモクセイ、マユミ、ヤブツバキ 等
- （低木） ウツギ、サツキツツジ、ツゲ、ドウダンツツジ
ヒラドツツジ 等

④これまでの橿原バイパス植栽で用いられていた樹種

- （高木） アラカシ、イチイガシ、ウラジロガシ、コジイ
シラカシ、ツクバネガシ
- （中木） ウバメガシ、サザンカ、マサキ
- （低木） シャリンバイ、トベラ、ヒサカキ、ヒラドツツジ

17

地域住民の生活の質を高める候補樹種

⑤ 季節感を演出する樹種

(高木) イチョウ、ケヤキ、サクラ類、トウカエデ、フウモクレン 等

(中木) アセビ、キンモクセイ、ギンモクセイ、サザンカサルスベリ、ハナミズキ、マユミ、ヤブツバキ 等

(低木) アベリア、クチナシ、コクチナシ、サツキツツジ、シャリンバイ、ハクチョウゲ、ヒラドツツジ、レンギョウ 等

⑥ 大気浄化能力の高い樹種

(高木) アオギリ、イチョウ、エゴノキ、エノキ、クヌギ、ケヤキ、ムクノキ 等

(中木) アキニレ、サルスベリ、マサキ、マユミ 等

(低木) ニシキギ、ヒユウガミズキ、ムクゲ、レンギョウ 等